

令和 7 年

区民委員会会議録

と き 令和7年11月26日

品川区議会

令和7年 品川区議会区民委員会

日 時 令和7年11月26日（水） 午前10時10分～午後2時46分
場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

出席委員 委員長 西村直子 副委員長 藤原正則
委員 こしば新 委員 おぎのあやか
委員 せらく真央

欠席委員 委員 こんの孝子 委員 高橋伸明

出席説明員 川島地域振興部長 平原地域活動課長
澤邊生活安全担当課長 今井八潮まちづくり担当課長
築山戸籍住民課長 小林地域産業振興課長
栗原創業・スタートアップ支援 辻文化観光スポーツ振興部長
担当課長
大森文化観光戦略課長 守屋スポーツ推進課長

○午前10時10分開会

○西村委員長

ただいまより、区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元の審査・調査予定表のとおり、報告事項、所管事務調査、視察、およびその他と進めてまいります。

なお、こんの委員、高橋伸明委員より、本日の委員会を欠席される旨、ご連絡をいただいております。

本日の視察については、午後1時に出発となりますため、0時までにはそれ以外の案件を終了させたいと思っております。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

1 報告事項

区内事業者向け経営相談・融資あっせんWEB面談システム運用開始について

○西村委員長

それでは、予定表1、報告事項を聴取いたします。

区内事業者向け経営相談・融資あっせんWEB面談システム運用開始についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

では、私から内容についてご報告させていただきます。資料をご覧ください。

まず、目的と概要になります。こちらは区内事業者が区役所に来庁することなく、経営相談ならびに融資あっせんの面談ですとか、紹介状交付を行うことができるWEB面談システムを導入するというものでございます。

こちらによって、事業者へのサービス向上および相談機会の創出を図ってまいります。また、融資あっせんに伴う一連の手続をオンラインですることにより、事業者の利便性向上や業務におけるペーパーレス化を図ってまいります。こちらの運用開始時期につきましては令和8年1月5日月曜日からを予定しております。

具体的な運用内容についてご説明いたします。まず、事業者の方は経営相談予約システムというものをういてWEB面談の予約をしていただきます。予約をしていただいた後、必要な書類等を品川区電子申請サービスを通じてアップロードしていただきまして、そういった事前準備を基に次の日にオンライン面談を経営相談員と行っていただきます。

融資あっせんにつきましては面談と審査が終了しましたら、事業者の元に融資あっせんの紹介状のダウンロードURLメールを送付させていただきます。通常であれば、面談が終わった後、中小企業センターのほうで20分から30分お待ちいただいた後に紹介状が発行されるのですけれども、こういった待ち時間が事業所もしくは自宅で待っていただくといったところでその時間帯にお仕事ができるということが可能となります。事業者の皆様におかれましてはダウンロード用のURLが送付されましたら、そちらから紹介状を印刷して金融機関に提出していただくというものになります。

こういったWEB面談システムを導入したことによる効果について3点ございます。1点目は、事業者の方の所要時間を短縮といったところです。まず、行き帰りの時間、それから紹介状が発行されるまでの待ち時間、こういったものがおよそ二、三十分程度短縮することを見込んでおります。

2点目につきましては、業務におけるペーパーレス化といったところでございます。こちらは融資

あっせんの紹介状を発行するに当たりまして、例えば、登記簿謄本ですとか、納税証明書、それから確定申告書のコピーを取らせていただいておりますけれども、電子でアップロードしていただくことによってペーパーの削減を見込んでおります。一応、1件に当たり最大約20枚と試算しまして、令和6年度のあっせん件数は2,000件弱でございましたので、おおよそ3万8,900枚と試算しております。この中で初年度としては約20%の方がWEB面談を利用していただくと考えますと、7,780枚の削減がまずは見込めるのではないかなと考えております。

それから、運用効果の3点目としましては、相談機会の創出でございます。かねてより議会のほうでも個人事業主ですとか、フリーランスの方、こういった方がなかなか中小企業センターに相談に来る時間が取れない、いわゆる店番をしていたりですとか、お一人で営業などをされている方が相談にご来所するのはなかなか困難だというお声も伺っているところでございますので、そういった方々に対してウェブでの相談機会を創出することによって、より気軽に相談ができるような体制を整えていく次第でございます。

次に、5の周知についてです。こちらは12月15日から中小企業支援サイトですとか、メールマガジンのほうで周知を図ってまいります。それから、チラシにつきましては中小企業センターの窓口、それから、各創業支援センターに配架する予定でございますとともに、産業ニュースへの掲載、それから取引金融機関への周知、こういったところを図ってまいります。

最後に、このWEB面談システムを導入した後も、来庁による面談も継続して実施してまいりますので、ウェブをご利用いただけない方に対しても通常どおりの運用を図って、双方での運用を継続してまいります。

○西村委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等ございましたら、ご発言をお願いいたします。

○おぎの委員

説明ありがとうございます。新しい試みで、運用方法をお聞かせいただけたらと思うのですが、1月5日から始めるということで、これは特に期限は切らず、今後ずっと実際の面談とウェブというので併用していくのかということが1点と、1日の受入れ枠などです。相談を受け入れる件数と、対応する職員というのは専属の方になるのか、順番に窓口に来たときと同じような形で何人かで対応に当たるのか、その辺りをお聞かせいただけたらと思います。

○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点ご質問いただきました。

まず、1点目、このシステムをずっとやっていくのかというところでございますけれども、1月5日から来年度も継続してやっていく予定でございまして、ウェブに振り切ってしまうのではなくて、当面はウェブと電話もしくは来庁でのご予約も継続してやっていく予定でございます。このウェブの比率が増えていけば、その段階で今後、一本化するのか、そこはまた将来的な検討になろうかなと考えております。

2点目の誰が対応するのかといったところでございますけれども、基本的には相談はこれまで商工相談員という者が相談に当たっておりましたので、そこはウェブでも来庁されても変わりません。同じ者が対応いたします。受付等、相談以外の前段階のさばきにつきましては、これまでどおり職員や委託事業者が担っていくところは変更ございません。

○おぎの委員

ありがとうございます。

継続していくということで、ニーズといいますか、要望を聞きながら調整していただけたらと思います。今までの方が対応するというので、場所はやはりこの事務所内になるのでしょうか。

○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

今現在、中小企業センターのほうに3つ、ブースを設けておりまして、そこで個別に相談を承っております。1日に枠としましては大体15、16枠ぐらい設けております。1回当たり1時間の相談枠を設けておりまして、これは現在もその時間で区切って基本的にはお答えをさせていただいているところでございます。そこに現在パソコンを配置して、相談に当たっているのですけれども、ウェブ用のモニターも配置して相談に当たるといったところを考えているところでございます。

○おぎの委員

ありがとうございます。

そういった準備をされてスタートするというので、非常に内容的に機密といいますか、個人情報というのも会社の情報を取り扱うことにもなってきますので、そういったことにも配慮されている形であつたらいいかなと思います。よろしくお願いします。

○西村委員長

ほかにご質問は。

○こしば委員

運用効果のところでは相談機会の創出に個人事業主だとか、フリーランスの方、比較的時間を取ることが難しい方への対応も可能になるということなののですけれども、まず、この個人事業主だとかフリーランスの方の場合ですと、中小企業支援サイトをそもそも知らない方もいらっしゃるのではないかなと。区のホームページにも必ず目立つような形で、もちろん、SNSでもそうですけれども、目立つような形でそこにアクセスができるようにしていただきたいと思うのです。私自身も事業名が分かれば、そこに検索すればそのまま飛んでいくのですけれども、それが分からないと、そこまでたどり着かないで、結局、課長に電話して詳しい内容を聞いたりしてしまうことがあったりしますので、余計にやはり個人の事業主の方にはその辺、寄り添った対応をしていただきたいと思います。その辺り、中小企業支援サイトに掲載とは書いておりますけれども、具体的に教えていただきたいと思います。

○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

周知に当たりましては、こちら、資料に掲載させていただいた媒体を使ってになりますけれども、それこそ使う文言ですとか、伝え方については平易な表現ですとか、いろいろな検索の仕方で皆様お調べになろうかと思いますので、いろいろな文言でヒットできるような、そういう言葉を使って皆様の検索に引っかかるような、そんな工夫はしてまいりたいと考えております。

○こしば委員

チャットボットだとか、あとはそれこそもうトップページにばんと載せてもいいと思うのです。そのぐらい、すぐ目に見えるような形で取り組んでいただきたいと思います。

○西村委員長

ほかによろしいですか。

では、ほかにご発言がないようですので、以上で報告事項を終了させていただきます。

2 所管事務調査

生涯学習について

○西村委員長

次に、予定表2、所管事務調査を議題に供します。

本日は7月1日の委員会において決定しました所管事務調査項目のうち、生涯学習についての調査を行ってまいります。

まず、理事者からご説明をいただきまして、その後、委員の皆様にはご質疑、ご意見等をお願いしたいと思います。

それでは、本件につきまして理事者より説明をお願いいたします。

○大森文化観光戦略課長

では、私からは所管事務調査、生涯学習についてをご説明させていただきます。資料をご覧ください。

サブタイトルとして多様な学びで区民のウェルビーイングを向上と記載しておりますとおり、項番1、目的・方向性につきましては、大きく2つ、区全体をキャンパスと見立て、区内の施設・大学などを学び舎としまして、日々の生活の質を高めるきっかけ作りにつながる多様な学習機会を提供すること、それから、2点目として区民のボランティアに講座の企画・運営のご協力をいただきまして、仲間づくりや交流の場としての役割や学習後も引き続きつながりを継続いただき、自主活動グループといった自発的な活動につなげていくこととしております。

項番2では、活動の3本柱と題しまして、具体的な活動内容のご説明となります。

(1) オープンカレッジは16歳以上の区内在住・在勤・在学の方を対象としており、行政課題への関心や郷土愛の育みのほか、リカレント教育にもつながる幅広い分野の学びを大学等と連携してご提供しています。資料のとおり、6つの講座がありまして、地域講座につきましては産業や文化、歴史などをテーマにし、前後期で4回ずつ座学や町歩きなどを実施いたします。その横は次年度の新規企画案としてございます。しなカレント講座というものの開設を予定しております。こちらは昨今耳にするリカレント教育をもじった講座で、気軽に参加できる単発の講座として品川区にちなんだ情報や様々な分野の情報のアップデートを狙った内容を考えております。また、各分野の専門家の方を講師にお招きして実施する専門講座といったものや区内と近隣区の大学を主とした学校と連携しまして各学校の特色を生かしたテーマをご提供するパートナーシップ講座などがございます。グリーンのハッチのかかった右下の枠は123回、6,911人の方にご参加いただいたということで、令和6年度の実績を記載してございます。

次に(2)品川シルバー大学となります。60歳以上の区内在住の方を対象としています。明るく健康で潤いのある生活を築き、仲間づくりや豊かな人間関係を育む場として、また、長年培ってきた経験を地域につなげる場として提供しています。参加者は学生というような形になります。ふれあいアカデミーというくくりで3年間かけて大学生活を送っていただくという形になります。講座に参加いただき、3年間で合計80単位の取得を目指すものとなります。1年生はふれあいコースといいまして、4月から7月を前期、9月から11月を後期としまして、講義や見学会、班活動、発表会などを通して活動をしていただきます。ふれあいコースが終了しますと、2年生、3年生と進級しましていきいきコースというものの活動になります。こちらでは歴史や伝統芸能、音楽、美術、文学といった様々なテーマを置きまして前期、後期でそれぞれ5科目を用意いたします。学生は興味のある科目を1つ選択していただきまして、その1つに対して10回の講義を受けていただくという形になります。うるおい塾につ

きましては、イメージとしては部活動的なイメージとなります。同じ趣味を持つ仲間と学びたい方に向けて書道だったり、体操だったり、語学だったりといったプログラムで主に実技的な講座を受けていただくというようなコースになります。こちらはふれあいアカデミーの学生だけでなく、60歳以上の区内在住の方であれば、どなたでも受講が可能なコースとなります。

次に（３）日曜サークルとなります。こちらは16歳以上の軽度知的障害者を対象としております。仲間との集団活動を通じて自主性を伸ばしまして、自立と余暇活動の充実を支援することを目指して取り組んでおります。参加者の皆様をメンバーとしまして運営ボランティアの方々をスタッフと呼んでおります。コースは3つありまして、グループ活動を中心に月1回のペースで実施しております。青年コースにつきましては加入時が16歳以上、30歳未満の方が対象となります。最も在籍人数が多く、室内外での活動や年1回バスを使つての宿泊活動を行っております。自主コースにつきましては青年コースに6年以上在籍した方が対象となります。都内への外出を主とした活動をメインとしておりまして、宿泊活動もございますが、こちらのほうは電車を利用して行くというような自主的な活動に特化しております。最後、成人コースは加入時が30歳以上の方が対象となります。調理実習や年2回のバスハイクなどを実施しております。

資料の右側に移っていただきまして、項番3、多様な担い手との協働となります。ここでは生涯学習事業の運営にご協力いただいている多くの方々を紹介します。

まず、（１）大学等連携です。オープンカレッジのほうでもご紹介したパートナーシップ講座にご協力いただいている大学、高等専門学校、都立高校、専門学校といった計14の学校と連携しております。その下、パートナーシップ協議会におきましては、学校名の最後に米印がついている7つの大学と1つの高等専門学校が年に1回から2回集まり、情報交換をするといった協議会となります。

次に、（２）区民ボランティアです。生涯学習推進員は講座の運営、受付のお手伝いをいただきます。ふれあいコース企画委員はシルバー大学でご紹介した1年生の班活動のフォローや発表会の準備・運営をしていただきます。2年生、3年生が1年生のお世話をするとといったイメージになろうかと思います。この活動により、次年度の企画委員の勧誘だったり、学年間の交流が生まれております。一芸ボランティアにつきましては、シルバー大学うるおい塾の講師となるために事前にご登録いただく制度となっております。各講師の専門分野を参考に講座を組み立てていきます。日曜サークルのスタッフは知的障害のある方に理解があり、円滑なサークル活動にご協力をいただいております。

最後に（３）シルバー大学同窓会です。シルバー大学を修了した方で運営されております。新たな出会いや活動の場となることや、生涯学習を継続していくことができるなど、会員相互の親睦を目的に活動している会となります。

項番4、課題と今後の展開です。三角印が3つございます。こちら、主に課題となります。1つ目はオープンカレッジの課題となります。参加者の76.5%が60歳以上の方となりまして、偏りが目立つ事業となっております。若い世代にご参加いただくための工夫が課題となっております。

2つ目は日曜サークルのスタッフ不足が課題となっております。大学スタッフやサポートスタッフといった制度を導入はしているのですが、協力を求めているところなのではございますが、スタッフの定着化が困難な状況になってございます。

3つ目は年間のほとんどの講座を区施設で開催しておりまして、1回の講座につき4回から10回といった連続したものも多いため、会場の確保が課題となっております。

また、今後の展開として力を入れていることについてを二重丸で2つ挙げております。1つはパート

ナーシップ協議会での大学との連携についてで、こちら、区と各大学の1対1の関係だけでなく、大学同士の横の連携強化に努め、品川区の大学の魅力発信につなげていく活動を検討していくというところを今検討してございます。

2つ目としてはシルバー大学で実施している講座に学生だけでなく、区民の方もご参加いただける講座を指定しまして、新規の入学生や事業のPRに取り組み、学びの機会の提供の拡充に取り組んでいくということを今後の展開ということで挙げさせていただいております。

引き続き、生涯学習というカテゴリーを幅広く柔軟に捉えまして、区民の皆様の学ぶ気持ちの受皿となりまして、仲間づくりや生活の張りといった心の豊かさの醸成に寄与した事業展開を心がけていく所存であります。

○西村委員長

説明が終わりました。

本件に関しましてご質疑、ご意見等ございましたら、ご発言願います。

○こしば委員

オープンカレッジのことでお聞きしたいのですが、行政課題の関心だとか、郷土愛を育む、多分生涯学習のことかなと思うのですが、生涯学習といったものだけでなく、リカレント教育にもつながる学びを提供していくということなのですか、そもそもリカレント、これ自体がそもそもリカレント教育には多分ならないと思うのです。多分、この学びを通じてその先にあるものがリカレント教育というものかなと思ってはいるのですが、その辺りのお考えについて教えていただきたいのが1つと、リカレント教育というのは高校、大学で一般教養とか、大学の専門課程を学んで、それから就職をして、就職をして働く中でこれまで培ってきた知識だとか、技術、そういったものがなかなか使いこなせなくなる、使いこなせないというか、要は時代がどんどん発展していくので、追いつかなくなってしまうので、そのスキルアップを図る、もしくは転職だとか、独立して起業するときに必要な知識などをつけるために学び直すのが多分リカレント教育だと、私もそう認識しているのですが、その辺り、このオープンカレッジの学びを通じてリカレント教育につながるというその考えについて教えていただきたいと思います。

○大森文化観光戦略課長

リカレント教育の意義とそのリカレント講座の設置位置というところなのですか、リカレント教育と似た言葉にリスキリングという言葉もございまして、深く調べていったところ、リカレント教育というものが社会人が仕事をしながら必要に応じて学び直しを行っていく知識のアップデート、上書きというようなことが書かれていたのです。リスキリングのほうに関しては、新しい仕事に就いたり、現在の仕事で必要なスキルの変化に対応していくために新しいスキルを習得することというような、そういった話だったので、そこを細かく分けさせていただいて、似通ったような意味合いもあるのですが、どちらかというと、今までの品川区のやり方だったりとか、思っていたことが今はこういう状態になっていますよというようなことをアップデート、上書きしていくというようなところに特化した講座にしていこうかなというところでこちらの講座のネーミングを考えたところでございます。

なので、結果としては新しいスキルの習得というところにつながっていくという意味合いが広くは出てくるのかなとは思ったのですが、そちらのほうになるとなかなかハードルが高くなってしまうので、知識の上書きというところから始めていって、今後様子を見ていきたいなと思っているところでございます。

○こしば委員

ありがとうございます。

課題と今後の展開を見ましたら、60代以上に偏りがあるということですが、恐らくリタイアをされた方が中心だと思うのです。対象は16歳以上の区内在住の在勤・在学の方ということで、その辺り、現役世代の方々が社会の中で生きる中で何を求めているかというのはアンケートもいろいろあると思うのですけれども、そこはぜひ酌み取っていただいて、講座運営に展開をしていただきたいと思います。お願いします。

○おぎの委員

ご説明、ありがとうございます。

多様な担い手との協働ということで、大学等、こういった区内の教育機関との連携で区内の学校が上がっておりますが、大学はわりかしイメージできるという、私も星薬科大学で年2回の春と秋の薬草のお話のときなどは参加していて、すごくたくさんの方がいらっしゃっているのですけれども、ここに都立高校が上がっているのですが、都立の高校との連携というのがイメージがしづらいのですが、どういったことを想定されていて、今までやっていた実績等があれば、教えていただきたいと思います。

○大森文化観光戦略課長

都立高校のほうでも先生方をお招きして、その先生方の分野に特化した講座を学校の中でやっていただくとか、そういったことで主に、どちらかというと、大学のほうは学生も対象にしたまるっとした講座になるのですけれども、高校の先生をお招きしてやるというようなところのつながりというところが大きいので、広がりとしてやはり、大学ほど広がっていないなというふうに、肌感はそのようなところを感じているところでございます。やはり委員おっしゃるように高校との連携というところがイメージがあまり湧かないなというところがあるなと我々のほうでもその辺りは課題だと思っているので、今後は少し広げた展開を、地元の高校とせきかくつながりがあるので、もう少し何か、連携を強めるような企画を提案していければと思っております。

○おぎの委員

ありがとうございます。

やはり高校となると、学校の先生ということで、お休みの日に高校内も部活動があったり等で、一般の方が入れるのかということもあるなと思っております。オープンカレッジは対象が16歳以上の区内在住・在勤・在学の方ということで、16歳以上ということは高校生も対象になっていますので、先生もそうですし、生徒もうまく巻き込みながら、皆さんが参加できる企画があればいいと思います。私も考えて、何かアイデアがあったら提案したいと思います。

○西村委員長

ほかにご質疑、いかがですか。

○せらく委員

ご説明ありがとうございます。私からもオープンカレッジのところの課題で上げている点についてお聞きしたいのですけれども、課題として参加者の76.5%が60代以上と偏りがあると書かれています。

そういったところから、思いとしてはやはり現役世代の皆様にも参加してほしいという思いがあるのかなと推察するのですけれども、実際にこのオープンカレッジは開催の曜日だったり、時間帯だったりはどうのように設定されていますでしょうか。

○大森文化観光戦略課長

オープンカレッジの実施の時間や曜日ですけれども、やはり開催日時は、主となるものが平日の2時や4時などが多いのです。中には、パートナーシップ講座などは土日の昼間とか、平日夜ということが設定できるのですけれども、どうしてもその他の講座は平日の昼間が多くなってしまうので、その時間は仕事をしているとか、学校に行っているなどという話になってしまうので、その辺りからも必然的に60歳以上の方が多くなるというようなところはあるのかなと思っていますところでございます。

一つ、子育て世代の方々を対象にするとか、対象を絞ったものにしていくという、今考えていることなのですけれども、昼間になかなか家から出られないという方を、気分転換というところですか、そういうところのきっかけプラス学びになるというところだったりとか、講座だけでなく、何か動きのあるワーク的なものがあると、そういう若い世代の方は意外と来るよというようなことを伺っているので、今後そういったものを取り入れながら、平日の枠から休日を多くするということができるかどうかというのは施設の関係などもあるので、その辺りも調整していかなければいけないところなのですけれども、できる部分で若い世代、子育て世代等にリーチしていくものができたらなと思っています。

○せらく委員

ありがとうございます。子育て世代という言葉も出てきてまして、今後の展開については楽しみにして、私も何か提案できることがあればしていきたいと思います。

追加でもう1点、オープンカレッジ自体は無料で受けられる講座なのか確認させてください。また、多様な担い手との協働の部分で、区民ボランティアの方は、どのような属性の方がいらっしゃるのか、一部ご紹介いただけたらと思います。

○大森文化観光戦略課長

オープンカレッジにつきましては、ほとんどのものは無料になるのですけれども、中には500円とか、数百円の単位のものでお金を頂いているものがございます。やはり連続して何回というものに関しては、連続した形で10回のもので2,000円などというふうに割り返すと200円ですみたいな、そういうものもあつたりするのですけれども、1回につきかかっても数百円ぐらいのところでの講座というような形になります。

それから、区民ボランティアに登録していただいている方の属性なのですけれども、生涯学習推進員やふれあいコースの企画委員の方たちは主にシルバー大学を経験して、そこで生涯学習というものに興味を持っていた方にそのまま継続していただいているというところがございます。シルバー大学同窓会も一緒なのですけれども、こちらのほうも生涯学習とか仲間づくりといったものにご興味がある方が継続してくださっていることが多いです。一芸ボランティアに関しましては、日々募集もかけているのですけれども、本当にちょっとしたところで異業種交流会とか、そういう場で、私、こういうことをしているのですという方を直接ヘッドハンティングしたりとか、日々のお話の中でシルバー大学の方から、折り紙の先生がいるのですとか情報をいただいて、そういう方たちにお声がけさせていただいたりとかということで、1人ずつ丁寧に聞き取りしながら一芸ボランティアに登録していただいているというような、そういうことをしております。

日曜サークルのスタッフも、ちょうど今時分から募集をかけていくというような形になりまして、こちらは募集による応募・公募というような形となっております。

○せらく委員

ありがとうございます。

ボランティアの募集についても、職員の方々がお声がけしている努力の表れだと思います。

生涯学習推進員とふれあいコース企画委員のほうはシルバー大学の経験者の方が多いということで、関わってくださる方が生涯学習に理解もあって、それから自分も学びながら支えていく側になっていくということがすごくいい循環になっていると感じました。ただ、やはり高齢化という部分もあると思うので、先ほどありました現役世代の方の参画とか、そういったところもオープンカレッジを通じてできるといいなというふうに、感想にはなりますが、そう思いました。

○藤原副委員長

4番の課題と今後の展開で、他の委員からは現役世代というお話があったのですがけれども、私が高齢者という意味で質問するならば、正直、これは課題かなと思ってしまいます。というのは、現役で働いている人ってまずは忙しいではないですか。日々働いて、いろいろなストレスがある中で働いている方が約4分の1も参加してくださっているということにまず、私は評価をします。60代以上がということが書いてあるのですがけれども、私はこれが課題かなと思ってしまいます。というのは、やはりずっと働いていて定年退職などをなされて、一段落して時間ができて、オープンカレッジへ行って今まで勉強できなかったことをしてみたいとか、知識を学びたいとか、そういうので行かれることが多いと思う。私も思いますもの。議員を辞めたら、次、こういうのに行って勉強したいとか、今までできなかったことをしたいなって、それは逆に時間があるからです。ですから、これが課題なのかなという思いがあるのですがけれども、こうやって何%って数字に出ているわけですね。正直言って、それはそうだよねという感覚しか出ないのです。この中で一番高齢者ですから。だから、すごく気持ちが分かるのです。どうですか。

○大森文化観光戦略課長

非常に多くの方にオープンカレッジも参加していただいた中で76%が60歳以上ということで、60歳、もう今働いている世代でもあるので、70代以上というところだと、これが50%ぐらいになって、もう半分ぐらいの方が70代以上というようなデータも出ております。ただ、やはり私どもが生涯学習という大きなくくりで学びというようなところを捉えているので、高齢の方の学びというものはある程度形としてはできているのではないのかなとも考えております。そこから大きく区民の皆様に学びというものを提供するというところに当たって、もう少しやはり若い層の方たちも、やはり見ないわけにもいかないなというところも考えているところでございますので、そういったところで何か刺さるような、人が集まる講座といったものをやはり研究していく、検討していくというのは必要なスタンスなのではないのかなと考えているところでございます。

○藤原副委員長

課長、決してこれ、60歳以上とか書いていないわけですね。16歳以上だから、門を閉じているのではない。そういう意味で言っているのではないです。16歳以上、学んでくれるということはもうまさにオープンカレッジ、オープンにしているのだから、すばらしいと思うのですがけれども、私はこの数字がストレートに正しい数字で表われているということは、時間ができた高齢者の方たちが来て、こうやって参加してくださっているということは、それほど課題で、もっと若い人を、どうしようということではなくて、オープンにしているのだから、それはそれでいいのではないですかという意味で言っていて、やはり、現役世代でお仕事をなされている方はもうお忙しくてどこかで時間ができたらという思いでこういうことに参加しているからこの数字になっていると思うので、という思いで言って、そして高齢者の意見としてすごく分かるもので、そういうふうに言っただけで、若い人はどんどん参加してく

ればいいわけですから、ただ、数字では出ると思うので、これはこうだなという現実を決して拒絶するものではないのではないかという思いでお話をさせていただいて、それと、区が一番やらなくてはいけないのは講座のほとんどが区の施設で開催しており、会場の確保が課題になっているって。これこそ、区がやらなくてははいけませんよね。こここそ、いっぱい課題があるけれども、ここをどう区として、区行政としてやるかということだと思うのです。いかがですか。

○大森文化観光戦略課長

会場の確保については、中小企業センターを使ったり、私たちの所管である文化センターを使ったりなどということで、あとは大学ですね。パートナーシップ講座でそのまま大学を使わせていただいているというのがありますけれども、この辺り、もう少し広めて民間の企業の会議室などを当たるとか、あとは区の施設でゆうゆうプラザとか、そういったところ、福祉系の施設でしたりとか、そういった区の施設を当たるところは各所管とご相談というような形になるのかなとは思っているのですが、その辺りを進めているというところで、区の施設は使い勝手のいい部分もありますので、なるべく区民の皆様にも使っていただく施設として空き状況を確保するということに努めていかないといけないのかなと思っています。

○藤原副委員長

今大事なところが一つ抜けているのですけれども、地域センターがあるではないですか。地域センターは時間帯にもよるのですけれども、結構空いているところがあります。そこを活用していくということで、こうやって区民委員会でも、部は違いますけれども、近くに地域センター所管の課がいるわけですから、地域センターの活用。この委員会が終わったら、もう話していただいて、どんどん活用していったほうがいいと思うのですけれども、今、課長のご答弁の中に地域センターという一番会場としては個数があるところが抜けているのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○大森文化観光戦略課長

シルバー大学の会場にも区民集会場と書いてあるように、区民集会場というか、地域センターの集会場にはもうかなり前からお世話になっているところがございますので、あえて新たに開拓するところというところでは挙げなかったというところで、すみません。本当に地域振興部にはとてもお世話になっているというか、非常に協力をいただいているというところを付け加えさせていただきます。

○おぎの委員

今の藤原副委員長の場所の確保という話からも、私もそういえば、1点思い出したことがありまして、講師の確保の面なのなのですが、シルバー大学、オープンカレッジ等で講師を務めていただく方への謝礼といいますか、お礼というのはどういった感じになっているのでしょうか。

○大森文化観光戦略課長

講師の謝礼につきましては、内規というような形がございまして、そちらのほうでかなり事細かに決まっていて、そんなに多くは支払えないところはあるのですが、皆様、今、その金額でご納得いただいた上でご協力いただいているというところがございます。

○おぎの委員

講義のスタイルも違いますし、内規があるということですが、本当に通われている生徒からお話を聞きますと、本当に賛同してご厚意で来ていただいている講師の方もやはり多くいらっしゃる、本来うまい塾等でも専門性ですよね、書道だったり、体操だったり、語学だったり、そういった先生も個人で生徒を取れば、その何倍もの収入になるといいますか、お月謝を頂いている方も、賛同してすごい少

ない謝礼と一緒にやっていただいている、ただ、その先生がすごく遠いところからいらっしやっていると、交通費だけでほとんど終わってしまう先生もいらっしやるので、できれば先生にも交通費を出してあげてほしいみたいなお話は上がっていますので、講師の安定した確保というところで状況を見ながら見直したりとか、検討していただけたらなと、これは要望です。

○西村委員長

よろしいですか。

私も質問させていただいていいですか。

課題と今後の展開のところで、実際委員の中でも日曜サークルに行かれたことのある方って少ないのかなと思ってまして、私も行くタイミングを逃してしまったのですが、課長は行っていると思いますので、実際に見ていただいたときのスタッフの不足感だったり、日曜サークルってもう何年やっていただいているのかなと思うのですが、やはりその中で培われてこられているチームワークだったり、実際に行かれてお感じになった感想も含めて現場感を伺ってよろしいですか。

○大森文化観光戦略課長

まず、日曜サークルがいつからかというところでは、昭和58年からスタートしております。コースの見直し等はいろいろとあって、今も少しコースの見直しを図ったほうがいいのではないかなどというお声も出ているところではございます。あと、現場感というところなのですけれども、月1回、活動をしておりまして、私も成年コースの宿泊研修などにも参加させていただきまして、第3日曜日、第1日曜日に実施している各コースにも参加しております。肌感としましては、やはりスタッフの方々が大変だなと思っています。このスタッフの方々に关しましては特別な免許や資格をお持ちいただいている方たちではないのです。なので、余暇活動の充実というようなところに特化させていただいているというところで、メンバーと一緒に遊んでいただくとか、あとはどこか連れて行ったりしたときに、ちゃんと連れて帰ってくるとか、そういったところで友達みたいなところの付き合いを会の中ではしていただいているなというところの反面、いつも会が終わると、大体3時ぐらいに終わってから、施設を借りている時間までみっちりとその後の反省会だったり、今後どうしていくとか、来月のことをどうするかとかということもきっちり計画立ててやっていただいているというところも、ちょっとやろうという感覚では継続的にはできないことなのではないのかなというふうに、こちらは大した額の謝礼をお支払いできているとは思っておりませんので、そういった現実があるかなというところの中でそういう気持ちのある方々に支えられている会であるなと思っております。

○西村委員長

ありがとうございます。もう長年やっていただいているので、つながりというのもこのサークルの中ですごくあるのだろうなというのを私も思っておりまして、実際に旅行に行くのも大変でしょうから、皆さんでまとまってそういった宿泊活動を行うなどということはすごく意義があるなと思っておりまして、大学生の方々にそういうお勉強をされている方とか、学科の方で今パートナーシップの講座の中の大学であるのですか。連携できそうな大学はあるのですか。

○大森文化観光戦略課長

パートナーシップ協議会のほうは、立正大学と清泉女子大学、そのほかは専門的な分野の大学が多くて、区内の大学に関しては特にそういう大学が多くて、立正大学と清泉女子大学にお声がけをしたり、場合によっては昭和医科大学、医療のほうとか、そういう分野のほうにも声をかけたりということをしてはいるのですけれども、やはりなかなか学生は忙しくて難しいというところがあります。これは余談

なのですけれども、職員の母校が世田谷のほうにある某大学で、そちらの先生をつたって生徒たちに呼びかけたところ、今年は10人ほど、協力いただける方ができたということもありまして、そういったところで職員のつながりですとか、スタッフのつながりですとか、そういったものを使ってお声がけさせていただいて、臨時的にスタッフをお願いしながらしているところでございます。

先ほどのサポートスタッフという話なのですけれども、こちらの方たちはもともと日曜サークルで定着してスタッフをやってくださっていた方々で、その方たちがいったんいろいろな事情でお辞めになったという方たちをピンポイントでちょっと空いていないかというようなところでお誘いして空いていれば、手伝いに来てくれるというもので、臨時的なスタッフを確保したりなどという、そういったところでスタッフの確保についてはなかなかやりくりを苦慮しながらやっているところでございます。

○西村委員長

ありがとうございます。あと1点だけ、二重丸のところで大学との連携強化をしていかれるということで、具体的に1 ON 1の関係ではなくて、横のつながり、何か具体例はありますか。

○大森文化観光戦略課長

具体例としては、今年度、お試し企画的なところなのですけれども、大学でお子さんを対象にスタンプラリーをしたいというような話がございました。そういった大学からの企画をこちらのほうに寄せた形にしまして、参加しているこの7大学のパートナーシップ協議会にそういった企画がありますよということを公表させていただいて、学園祭巡りスタンプラリーというのですか、各学校で学園祭を実施しておりますので、そこにスタンプのシートを作りまして、初年度ということで先着50人と限らせていただいたのですけれども、そういったことで大学を見てもらったりとか、区内にこういった大学がありますよというのを親御さんとともに知っていただくということで、品川区の大学が連携しているというようなところを知っていただいたりですとか、こういった学校の取組にうちの子どもも入れようかなみたいな話になって大学の生徒確保とかにつながっていけばいいなというようなことを期待しながら、お試的にこの学園祭巡りスタンプラリーというものを実施しました。

○西村委員長

よく分かりました。ありがとうございます。

では、皆様、よろしければ。ありがとうございました。

ご発言がないようですので、以上で所管事務調査を終了させていただきます。

4 その他

(1) 議会閉会中継続審査調査事項について

○西村委員長

次に、会議の運営上、予定表の順番を入れ替えまして、予定表4、その他を議題に供します。

まず、(1) 議会閉会中継続審査調査事項についてでございますが、配布の申出書案のとおりでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西村委員長

それでは、この案のとおり申し出ます。

(2) 委員長報告について

○西村委員長

次に、（２）委員長報告についてですが、昨日の議案審査の結果報告については正副委員長にご一任
いただいてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○西村委員長

ありがとうございます。それでは、正副委員長でまとめさせていただきます。

（３）その他

○西村委員長

次に、（３）その他はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○西村委員長

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

４ 視察

○西村委員長

最後に予定表４の視察を行います。

本日はこれよりアイルしながわ等の視察を行います。

この後、昼休憩を取りまして、午後１時に出発をしたいと思います。委員および視察に同行される理事者は午後１時に第三庁舎２階のマイクロバスにご参集いただきますよう、お願い申し上げます。なお、放送でもご案内いたします。

視察後、当委員会室へは戻らない予定ですので、お荷物はお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

それでは、会議の運営上、暫時休憩いたします。

○午前１１時１１分休憩

〔視察場所：アイルしながわ等〕

○午後２時４６分再開

〔車中にて再開後、閉会を宣する〕

○午後２時４６分閉会